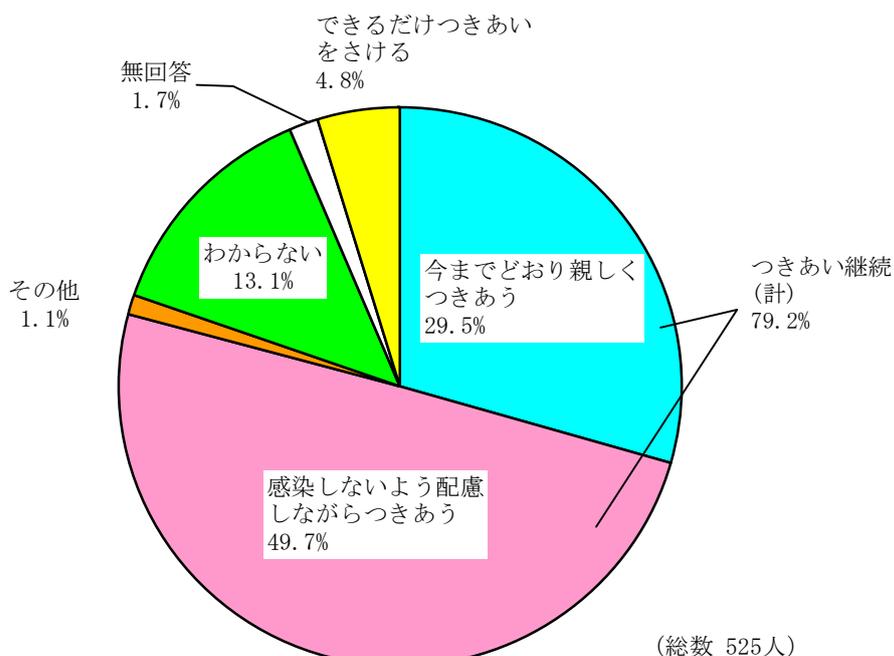


第9章 患者の人権について

1. エイズ感染者とのつきあい

問 27. もし、職場や地域などで日ごろ親しくつきあっている人がエイズの原因のウイルス（H I V）感染者であることがわかった場合、あなたはどのようにしますか。（記入は1つ）



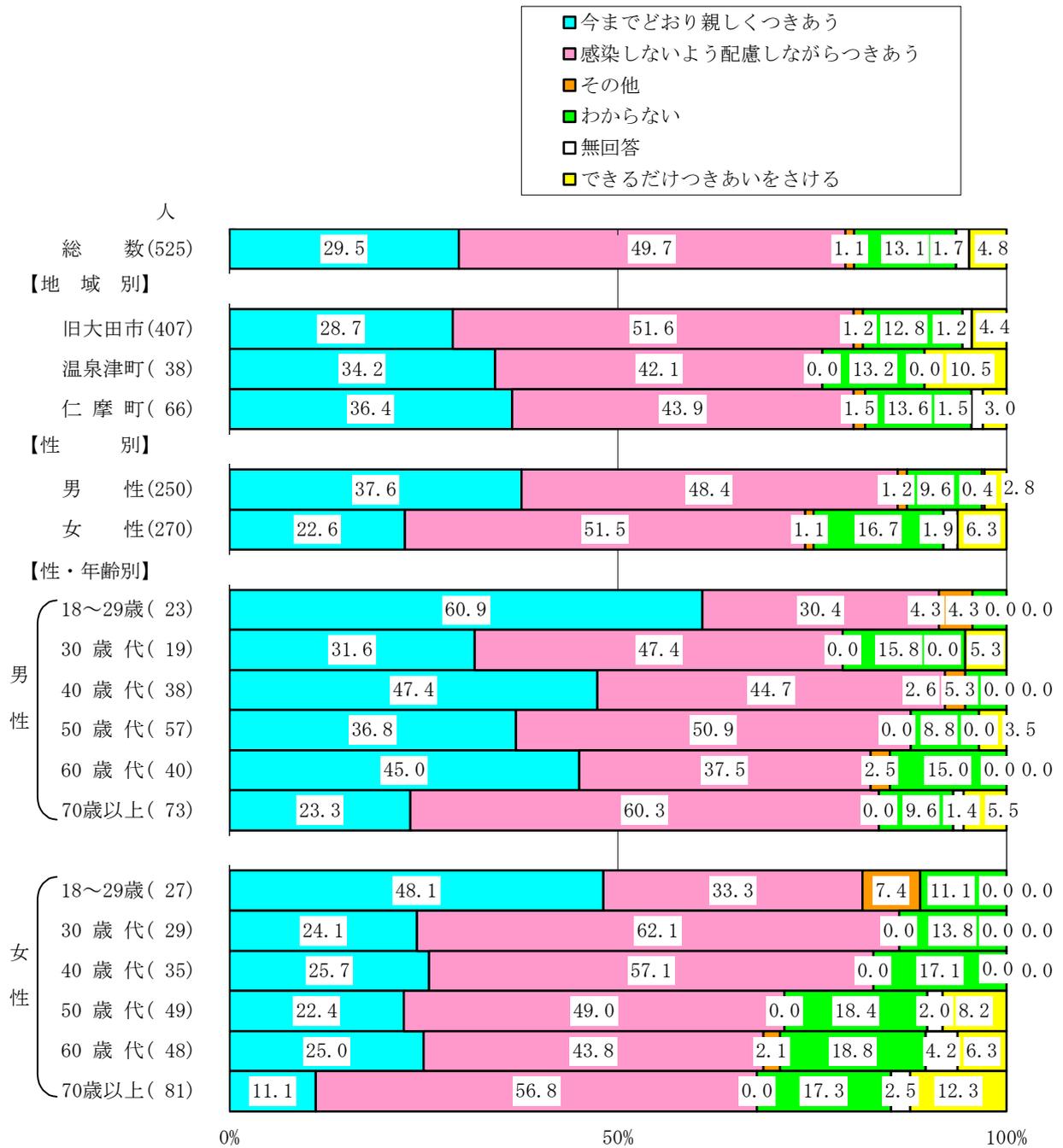
■ 約8割が「つきあい継続」

日ごろ親しくつきあっている人がエイズの原因ウイルス（H I V）感染者であることがわかった場合のつきあい方を聞くと、「感染しないよう配慮しながらつきあう」が 49.7%（県 46.4%）、「今までどおり親しくつきあう」が 29.5%（県 22.6%）で、これらを合わせた『つきあい継続(計)』は 79.2%（県 69.0%）となっている。一方、「できるだけつきあいをさける」は 4.8%（県 6.9%）、「わからない」13.1%（県 16.7%）となっている。

性別では、『つきあい継続(計)』が男性は 86.0%、女性は 74.1%であり男性の方が多くなっている。

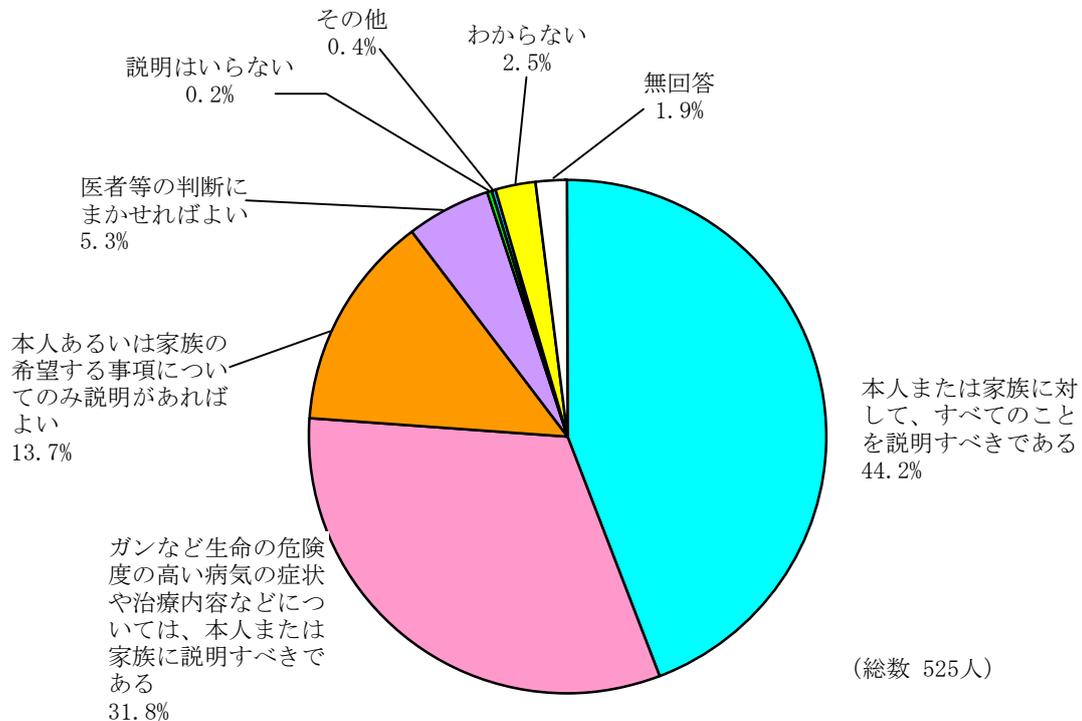
性・年齢別では、『つきあい継続(計)』は、男性の 29 歳以下と 40 歳代で 9 割を超えているが、女性の 60 歳代以上では 7 割弱となっている。

図 9-1 エイズ感染者とのつきあい



2. インフォームド・コンセントと患者の権利

問 28. 現在、医療の分野において話題となっているインフォームド・コンセント（病状や検査・治療方針について、医師が患者に対して複数の選択肢があることを十分に説明したうえで同意を得ること）について、患者の権利としてはどう思いますか。（記入は1つ）



■ 「すべてのことを説明すべきである」が約4割半

インフォームド・コンセントについて、患者の権利としてどう思うかを聞いたところ、「本人又は家族に対して、すべてのことを説明すべきである」が 44.2%（県 42.9%）、「ガンなど生命の危険度の高い病気の症状や治療内容などについては、本人または家族に説明すべきである」が 31.8%（県 30.1%）、「本人あるいは家族の希望する事項についてのみ説明があればよい」が 13.7%（県 11.4%）、「医者等の判断にまかせればよい」が 5.3%（県 3.2%）、「説明はいらない」が 0.2%（県 0.1%）となっている。

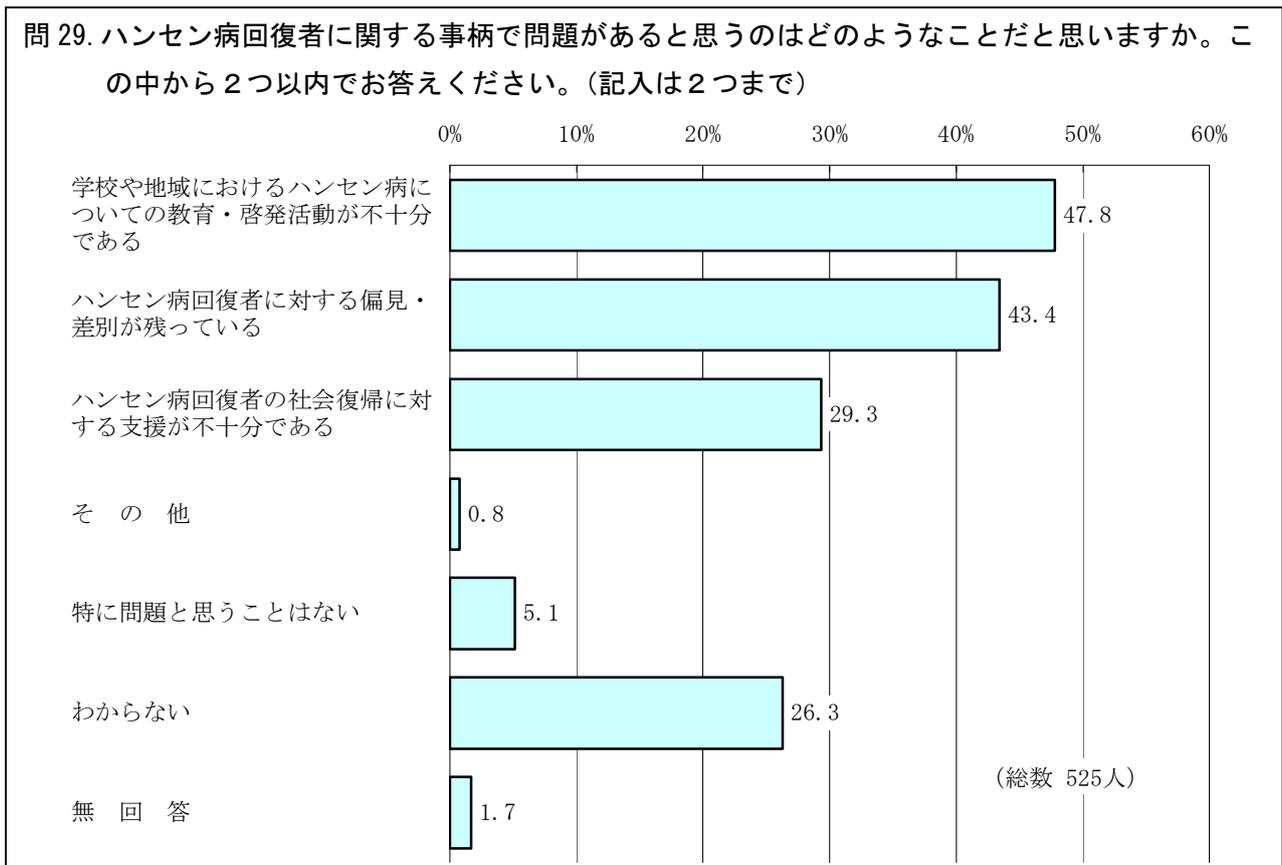
地域別にみると、「すべてのことを説明すべき」は旧大田市（45.5%）で多く、「医者等の判断にまかせればよい」は温泉津町（13.2%）が多い。

性別では、あまり差異はみられないが、性・年齢別にみると、「すべてのことを説明すべき」は女性の30歳代（79.3%）が最も多いが、男女とも60歳代以上は約3割と少なくなっている。

図 9-2 インフォームド・コンセントと患者の権利

	人	本人または家族に対して、すべてのことを説明すべきである	ガンなど生命の危険度の高い病気は、本人または家族に説明すべきである	本人あるいは家族の希望する事項についてのみ説明があればよい	医者等の判断にまかせればよい	説明は知らない	その他	わからない	無回答	
総 数	525	44.2	31.8	13.7	5.3	0.2	0.4	2.5	1.9	
【地 域 別】										
旧大田市	407	45.5	31.9	14.3	4.2	0.2	0.5	1.7	1.7	
温泉津町	38	39.5	36.8	10.5	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
仁 摩 町	66	39.4	33.3	15.2	7.6	0.0	0.0	4.5	0.0	
【性 別】										
男 性	250	42.4	34.4	14.0	4.4	0.4	0.4	3.2	0.8	
女 性	270	45.9	30.0	13.7	6.3	0.0	0.4	1.9	1.9	
【性・年齢別】										
男 性	18～29歳	23	52.2	30.4	13.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0
	30 歳 代	19	63.2	15.8	10.5	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0
	40 歳 代	38	57.9	23.7	13.2	2.6	0.0	0.0	2.6	0.0
	50 歳 代	57	45.6	36.8	12.3	1.8	1.8	1.8	0.0	0.0
	60 歳 代	40	32.5	45.0	12.5	2.5	0.0	0.0	5.0	2.5
	70歳以上	73	28.8	38.4	17.8	11.0	0.0	0.0	2.7	1.4
女 性	18～29歳	27	63.0	22.2	11.1	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0
	30 歳 代	29	79.3	13.8	3.4	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0
	40 歳 代	35	68.6	17.1	11.4	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	50 歳 代	49	49.0	22.4	24.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1
	60 歳 代	48	27.1	54.2	8.3	6.3	0.0	0.0	2.1	2.1
	70歳以上	81	27.2	34.6	16.0	16.0	0.0	0.0	3.7	2.5

3. ハンセン病回復者に関する人権上の問題



■ 「学校や地域での教育・啓発活動が不十分」と「偏見・差別が残っている」が4割強

ハンセン病回復者に関する事柄で問題があると思うこととしては、「学校や地域におけるハンセン病についての教育・啓発活動が不十分である」が 47.8% (県 43.3%)、「ハンセン病回復者に対する偏見・差別が残っている」が 43.4% (県 43.2%)、「ハンセン病回復者の社会復帰に対する支援が不十分である」が 29.3% (県 24.8%) となっている。一方、「わからない」は 26.3% (県 16.5%)、「特に問題とすることはない」は 5.1% (県 5.0%) であった。

性・年齢別でみると、「学校や地域におけるハンセン病についての教育・啓発活動が不十分である」は男性の 29 歳以下 (60.9%)、女性の 30, 40 歳代で 6 割を超え多くなっている、また、「ハンセン病回復者に対する偏見・差別が残っている」は男性 50 歳代、女性 29 歳以下で多く、「ハンセン病回復者の社会復帰に対する支援が不十分である」は 60 歳代女性で多くなっている。また、男性 30 歳代の過半数が「わからない」と回答している。

患者の人権についての調査結果をみると、エイズ感染者については、全世界で様々な教育・啓発活動が進んでいるため、関心が高い。今後一層、正しい知識の普及や偏見の払拭に努めていかなければならない。ハンセン病回復者に関する問題においては、「学校や地域におけるハンセン病についての教育・啓発活動が不十分である」の意見が 5 割弱、「わからない」の意見が 3 割弱であるように、教育・啓発活動が不十分なのが現状であるため、正しい理解をするための意識啓発をしていかなければならない。

図9-3 ハンセン病回復者に関する人権上の問題

